

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 報告数282件(前月比 0. 2、前年同月比 0. 2)で、4月から急激に減少していましたが、5月に入ってさらに減少しました。菊池は(11. 3)と注意報レベルでした。

※()書きは1ヶ月の報告数を定点数で割った値。以下同じ。

小児科定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が48医療機関から50医療機関に増えました。

(全体傾向) 報告数5, 515件(前月比 1. 1、前年同月比 1. 2)で、1月から減少を続けていましたが、5月にはやや増加に転じました。インフルエンザは減少(0. 2)していますが、多くの疾患で増加が見られています。ヘルパンギーナ(4. 4)、流行性耳下腺炎(3. 9)、咽頭結膜熱(1. 8)、A群溶連菌咽頭炎(1. 3)、手足口病(1. 4)、感染性胃腸炎(1. 1)の増加が全体の増加の要因と思われます。百日咳の報告が8件(2. 7)でした。1月から毎月報告が続いており、じわじわと増加しています。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症:

報告件数4件(前月比 0. 3、前年同月比 0. 6)で、昨年8月より例年より早い流行が始まり、今年の1月まで例年以上の報告数でしたが、1月から減少し続けています。例年通りの傾向です。

2. 咽頭結膜熱:

報告数115件(前月比 1. 8、前年同月比 0. 9)で、4月までの減少傾向が、増加に転じています。菊池(5. 6)、山鹿(5. 0)からの報告が多いです。乳幼児を中心に報告がみられます。

3. A群溶連菌咽頭炎:

報告数519件(前月比 1. 3、前年同月比 0. 9)で、4月からわずかに増加に転じています。宇城(22. 8)、菊池(21. 2)、熊本(11. 4)からの報告が目立ちます。3歳～8歳の報告が多いです。

4. 感染性胃腸炎:

報告数2, 713件(前月比 1. 1、前年同月比 1. 4)で、報告数が一番多い疾患です。例年並みの推移でしたが、5月に入ってやや増加しています。山鹿(101. 5)、菊池(95. 2)、有明(91. 6)からの報告が多いです。1歳から20歳代まで幅広い年齢層の報告です。

5. 水痘:

報告数260件(前月比 1. 1、前年同月比 0. 5)で少ない報告が続いていますが、4月、5月はやや増加しました。1歳～3歳の報告が多く、ワクチン接種で予防していく事が望まれます。天草(9. 0)、山鹿(8. 5)からの報告がやや多いようです。

6. 手足口病:

報告数564件(前月比 1. 4、前年同月比1. 3)で、4月から増加し始め増え続けています。今後夏に向かって増加が予想されます。水俣(51. 0)、八代(28. 5)からの報告が多く、1歳～3歳に多く見られます。

7. 伝染性紅斑:

報告数4件(前月比 0. 4、前年同月比 0. 3)で、昨年から引き続き少数で推移しています。

8. 突発性発疹症： 報告数190件(前月比 1. 2、前年同月比 0. 7)で、例年通りの傾向でした。2歳に7例の報告がありました。
9. 百日咳： 報告数8件(前月比 2. 7、前年同月比 ー)で、今年に入って毎月報告がありました。今月は急に増加して8例となりました。全員菊池からの報告で、10歳代です。
10. ヘルパンギーナ： 報告数553件(前月比 4. 4、前年同月比 5. 5)で、5月に急に増加に転じました。これからの季節に流行しますので、注意が必要です。菊池(30. 6)、宇城(26. 0)の報告が目立ちます。1～2歳をピークに乳幼児に流行しています。
11. 流行性耳下腺炎： 報告数43件(前月比 3. 9、前年同月比 1. 2)で、昨年来、少ないままで推移しています。しかし0歳～10歳台まで幅広い年齢層の報告です。20歳台が1人報告されています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数79件(前月比 1. 3、前年同月 1. 4)と増加しています。年齢別では20～49歳代に発症のピークがありますが、50歳代以上を加えますと全体の約80%になり、成人以降の年齢層に多発しています。地域別では熊本73件、菊池1件、有明3件、天草2件の報告です。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

※今回の特徴として、淋菌感染症が40件(前月比 3. 1、前年同月比 1. 9)と異常に多く、特に熊本市に28件と多く見られています。

1. 性器クラミジア感染症： 報告数 55件(前月比 1. 3、前年同月比 1. 1)で、前月比、前年同月比ともに増加しています。男女別は、女性が36件と多く見られています。年齢別は、女性は20～29歳に19件と多く、男性では15～19歳、20～24歳に各5件、35～39歳に4件と多く見られています。地区別は、熊本36件と圧倒的に多く、次いで八代12件、有明3件、菊池、宇城に各2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数 17件(前月比 0. 7、前年同月比 0. 7)で、前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、女性が13件と多く見られています。年齢別は、女性は15～70歳以上と幅広く、男性は35～54歳に見られています。地区別は、熊本が7件と圧倒的に多く、次いで菊池、有明に各3件、八代、宇城に各2件でした。
3. 尖圭コンジローマ： 報告数は9件(前月比 1. 5、前年同月比 0. 8)で、前月比では増加、前年同月比では減少しています。男女別は、男性に6件と多く見られています。年齢別では、男性は20～24歳に4件と多く、女性は15～29歳に見られています。地区別は、熊本6件、菊池、御船、宇城に各1件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数は40件(前月比 3. 1、前年同月比 1. 9)で前月比、前年同月比とも著明に増加しています。男女別は、男性に35件と多く見られています。年齢別は、男性は15～39歳に29件と多く、女性は15～44歳に見られています。地区別は、熊本28件と圧倒的に多く、次いで八代5件、宇城3件、菊池2件、有明、天草に各1件でした。

基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎: 報告数0件(前月比 -1、前年同月比 -1)でした。
2. 無菌性髄膜炎: 報告数1件(前月比 1.0、前年同月比 0.3)でした。
3. マイコプラズマ肺炎: 報告数4件(前月比 1.0、前年同月比 0.3)でした。
過去2年より少ない傾向が続いています。
4. クラミジア肺炎: 報告数1件(前月 0件、前年同月比 0.5)でした。
5. 感染性胃腸炎: 報告数27件(前月比 0.9、前年同月比 データなし)でした。
(ロタウイルス) ここ3か月増加傾向が続いており要注意です。

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:
報告数21件(前月比 0.7、前年同月比 0.8)でした。
先月より減少していますが、減少は頭打ちが続いています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:
報告数6件(前月比 0.9、前年同月比 3.0)でした。9歳以下は1件、17%です。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症:
報告数0件(前月 0件、前年同月 0件)でした。ここ1年で2件のみです。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症:
報告数0件(前月 0件、前年同月 0件)でした。ここ1年で0件です。

届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核: 41件
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症: 3件
- 4類感染症: A型肝炎: 2件
つつが虫病: 1件
日本紅斑熱: 2件
レジオネラ症: 1件
- 5類感染症: 後天性免疫不全症候群: 2件
侵襲性肺炎球菌感染症: 2件
梅毒: 1件